



モフのわくわくたんけん



モフは、もふもふの毛をしたチャウチャウの子犬。冒険が大好きで、いつも新しい世界を夢見ていました。「よし、今日こそ探検だ！」と、モフはそーっと玄関のドアを開けました。



ドアの外は、キラキラ輝く太陽と、どこまでも続く緑の田んぼが広がっていました。「うわー、すごい！」モフは目を丸くして、大きく息を吸い込みました。



田んぼのあぜ道を歩いて
いると、ぴょーん！と何
かが飛び出しました。

「わっ、びっくりし
た！」それは、緑色でぴ
かぴかのカエルさんでし
た。



「きみは誰？」「ぼくは
モフ！きみは高く飛べる
んだね！」「ケロケロ！
見ててごらん！」カエル
は得意そうに、またぴょ
ーんと跳ねました。モフ
も真似してジャンプしよ
うとしましたが、もふも
ふの体は重たくて、ぽす
んとお尻をついただけで
した。



小川をのぞき込むと、今度は赤い体に大きなハサミを持ったザリガニがいました。「こんにちは」モフが挨拶すると、ザリガニはチョキン！と大きなハサミを鳴らしました。モフは思わず一步後ずさりしました。



「そのハサミ、すごい
ね」「これかい？これで
硬いものも挟めるんだ」
ザリガニはそう言うと、
水の中の小石をチョキン！
と挟んで見せました。
「すごい！」モフは
感心して拍手をしました。



ふと空を見上げると、きれいな羽のトンボがすいーっと飛んでいました。

「いいなあ、ぼくも空を飛んでみたいなあ」モフはうらやましそうに、いつまでもトンボを目で追っていました。



高く飛べるカエル、力持
ちのザリガニ、空を飛ぶ
トンボ。みんなすごいな
あ。それに比べてぼく
は...モフは、自分の短い
足をもじもじさせなが
ら、少しだけしょんぼり
してしまいました。



とぼとぼと帰り道を歩いていると、草むらから「ちゅん、ちゅん」と小さな鳴き声が聞こえました。見ると、まだ飛べない子スズメが震えています。「どうしたの?」「寒くてお母さんがいないの...」モフは子スズメを自分のもふもふの毛の中にそっと入れてあげました。「わあ、あったかい...」





しばらくすると、親スズメがやってきて、子スズメは元気に帰っていきましました。「ありがとう、もふもふさん！」モフは胸がぽかぽか温かくなりました。高く飛べなくても、力がなくても、ぼくにはこのもふもふがある！モフは誇らしげに胸を張って、おうちへと帰りました。今日の冒険も、大成功！

